

【青山地区】 知っトク！納得！高齢者のあんしん生活

青山地区まちづくり協議会（遠藤政幸会長）は7月18日（土）、青山地区活動センター（青山三丁目）にて、第8回となる標記セミナーを開催しました。



今回は、「高齢者にまつわるお金のおはなし」をテーマに、法テラス岩手法律事務所の影山友康弁護士、一般社団法人岩手県銀行協会の及川崇常務理事を講師に、岩手県社会福祉士会の鈴木智之社会福祉士を進行役に迎え、青山地区の住民等55人が参加しました。質疑応答では講師への質問が複数寄せられ、参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。

このセミナーは、同協議会の「誰もが安心して

生活できるまちをつくりたい」との思いと、青山和敬荘地域包括支援センター（南青山町）の「高齢者の権利擁護に関する企画を広く伝えたい」との思いが一致したことをきっかけに、令和4年度に始まり、5年目となる現在も年に2回程度の開催を続けています。

セミナーの実施に当たり、同協議会は、高齢者の利用が多いスーパーマーケットや銀行、郵便局などの地元にある企業とのつながりを生かし、セミナーの告知を担当。一方、同センターは、日頃の相談業務を通じて把握している高齢者の悩みや不安を踏まえ、セミナーのテーマや講師の選定などを担当しています。両者がそれぞれの強みを生かした役割分担をすることで、多くの参加者の確保につながり、継続的な開催が実現しています。

同協議会の宮川寿安全安心まちづくり部長は、「青山和敬荘地域包括支援センターの力を借りながら、それぞれができることを持ち寄りセミナーを開催しています。また、参加者アンケートでいただく意見を次回テーマの参考としており、地域住民の役に立つ充実したセミナーをこれからも継続していきたいです。」と話していました。

NPOから のお知らせ

新たに設立認証した NPO法人のご紹介

特定非営利活動法人 なじよす・もりおか

【活動目的】

児童・障がい者、高齢者等福祉サービス利用者に対して、権利擁護に関する事業を行い、福祉の向上の実現に寄与すること。

【活動内容】

福祉オンブズマン活動事業、福祉オンブズマン養成・育成事業、権利擁護啓発事業など

【認証日】令和8年5月18日

内閣府NPO法人
ポータルサイト▶



地域活動団体ポスター展示会を開催します！

町内会・自治会やNPO法人、市民活動団体等の活動を紹介するポスター展示会を開催します。各団体の意欲的な活動の様子が見られる機会となっています。お近くにお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

詳しくは ▶
広報ID：1021379



【展示日程・場所】※開催時間は各施設の開館時間と同じです。

○ 9月17日(木)～27日(日)	中央公民館
○ 9月30日(水)～10月7日(水)	西部公民館
○ 10月 9日(金)～16日(金)	市役所本庁舎1階
○ 10月21日(水)～25日(日)	河南公民館
○ 10月28日(水)～11月3日(火)	都南公民館
○ 11月13日(金)～17日(火)	渋民公民館

※会場の広さにより展示内容が変更となる場合があります。

回										
覧										

つながる
Vol. 109

輪・和・WA
輪・和・WA



発行：盛岡市市民部市民協働推進課

〒020-8530 盛岡市内丸12-2
TEL：019-626-7535（直通）

（令和8年8月発行）

【みたけ地区】地域で学び考える ～猫問題をテーマにした講演会を開催～

みたけ地区活動福祉推進会（菊池伸輔会長）は6月30日（火）、みたけ地区活動センター（みたけ四丁目）で、地域の猫問題について学ぶ講演会を開催し、約30人が参加しました。

この講演会は、みたけ地区に住む認定NPO法人もりねこの会員に寄せられた地域住民からの猫による糞尿被害等の相談をきっかけに企画されたものです。地域では、「かわいそうだから」と野良猫に餌やりだけを行い、適切な管理が行われないケースや、「保健所に相談すると殺処分される」という誤解から専門機関への相談につながらずに困っているケースがありました。こうした状況を受け、地域全体で問題を共有し、解決につながる知識を学ぼうと、同推進会が講演会を開催しました。

同推進会の進藤聖希事務局長は、「それぞれの講師の話に共通していたのは、『早く気づくこと』そして『動くこと』。猫に限らず、様々な面で『気づくこと』が大切だと再確認した講演会と感じました。」と感想を述べました。

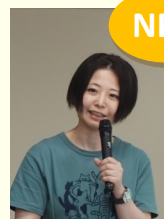
参加者は、一人ひとりが地域の課題を「誰かの問題」ではなく「みんなの問題」として捉えること、早く気づき、深刻化する前に相談や行動につなげることの重要性を学び、地域課題の解決に向けた第一歩となりました。



講演会のほか、にじのはしスเปイクリニックが所有する移動式手術車の見学も。

講師と講演の内容

NPO 認定NPO法人もりねこ 工藤幸枝 理事長



猫の保護・譲渡活動のほか、保健所や地域住民と連携した猫問題の解決支援を紹介。猫問題は地域全体の課題であるとし、一人で抱え込まず、地域住民が主体となり課題解決に取り組む重要性を説明。

企業 にじのはしスเปイクリニック 高橋葵 院長



全国で行う出張不妊去勢手術の活動を紹介し、動物病院が近くになく地域でも手術が受けられる意義を説明。住民、市民活動団体、獣医師、行政がそれぞれの役割を担いながら連携する必要性を強調。

行政 盛岡市保健所 岩崎ささ子 主査 (動物愛護担当)



保健所に寄せられる野良猫や多頭飼育に関する相談、地域猫活動への支援制度について紹介。猫を地域全体で見守りながら課題解決を目指す取組を説明し、地域をよく知る住民間での早期発見と行政への早期相談を呼びかけ。

令和8年度市民協働推進事業

採択事業が決定しました！

市は、市民による公共の利益の増進を目的とした活動を支援し、協働によるまちづくりを推進するため、市民活動団体等から提案された事業に補助金を交付する「市民協働推進事業（公募型協働推進事業）」を実施しています。

令和8年度は、4月1日（水）から5月8日（金）まで企画提案を募集したところ、7事業の応募がありました。5月22日（金）に、市民協働推進事業選考委員会（濱田秀樹委員長（岩手大学 研究・地域連携部長））を開催。各団体によるプレゼンテーションが行われ、選考の結果、6事業が採択されましたので、その概要を紹介します。

これまでの市民協働推進事業の活動事例集はこちら。▶（広報ID：1022508）



協働事業

市が実施していない公益的な事業で、市民活動団体等と市が協働することで、より高い効果が期待できる事業

1 外国人町内会居住者とのコミュニケーションの促進事業

たたらやま

- 提案団体／担当課 釜山 町内会／文化国際課
- 補助額 7万円
- 事業概要

釜山町内では、区域にある工業団地で働く外国人居住者が増加しており、生活習慣やゴミ出しなどの生活ルールの違いから、住民同士の認識にズレが生じていました。また、外国人居住者の中には、休日に外出することが少なく、盛岡のことを

あまり知らない方もいるとのこと。いずれ母国に帰る方も多いとのことですが、盛岡に愛着を持ってもらいたいと考え、ゴミ出しルールを学ぶ研修会や従来の住民と一緒に市内を散策し、市の歴史や文化を知ってもらう講座などを行います。



テーマ設定型事業

市が社会的・地域的な課題と考えるテーマに基づき、市民活動団体等からの企画提案により、市民活動団体等と市が協働することで、より高い効果が期待できる事業

1 建築を介した「地域の関りのデザイン」による、多主体協働のまちびらきプロジェクト

- 提案団体／担当課 （特非）盛岡まち並み塾／都市戦略室
- 補助額 40万円
- 事業概要

大慈寺地区鉾屋町界限は、盛岡の城下町の歴史文化を伝える街並みと人々の暮らしが融合した地域です。この地区では長年「黒川さんさの門付け」などの伝統行事が行われていますが、それだけでは伝えきれない町や人々の潜在的な魅力があり、そこを伝えたいと考えました。同法人はこれ

までも、鉾屋町界限で町探訪や住民同士の交流会を企画していますが、その中で参加者から、より積極的にまちづくりに参加したいという声も上がっていました。このことから、鉾屋町界限の寺社や蔵などの建物を舞台に、地域で暮らす人々が中心となり、歴史文化的な特技を持ち寄り、参加者が体験するイベント「（仮称）まちごと万博」を開催します。



2

ジャズ喫茶マップを活用した盛岡ジャズスポット回遊促進及び盛岡の文化魅力発信事業

あきよし

- 提案団体／担当課 （特非）穂吉敏子ジャズミュージアム／都市戦略室
- 補助額 40万円
- 事業概要

盛岡には、ジャズ喫茶やライブ開催店など、多様なジャズ文化資源があり、その魅力は日常の中に根付く文化としてニューヨークタイムズ紙でも評価されています。しかし、それぞれ個別に情報発信するなど、市民や観光客が横断的に楽しめる環境にはない状況です。そこで、市内に点在する

ジャズ関連店舗という文化資源をつなぎ、街なか全体で市民や観光客がジャズ文化を楽しめる環境づくりに取り組むため、各店舗の魅力を詰め込んだ「盛岡ジャズスポットマップ」を紙媒体とWEBにて作成し、一体的な情報発信に取り組むほか、店舗巡りを促進するスタンプラリー企画も実施します。



3

盛岡しょうが市2026開催事業

- 提案団体／担当課 盛岡しょうが市実行委員会／経済企画課
- 補助額 40万円
- 事業概要

現在の肴町～南大通界限は、江戸時代には「生姜町」と呼ばれ、当時の盛岡で最も栄えたエリアの一つといわれていました。「生姜町」という町名は日本で唯一、盛岡にしかなく、神明社の祭日付近に生姜が売られていたことが由来ですが、現在はその歴史を知らない人が多いのが実情です。

歴史や文化に根差した体験を通じて地域の魅力を認識することで、生姜町への愛着や誇りを育むとともに、中心市街地への回遊を促進し、賑わい創出につなげることを目指し、町名の由来や文化・歴史を活かし、生姜を使った限定メニューの提供や街歩きツアーを含むマルシェの開催などに取り組みます。



4

北クラキッチン事業

- 提案団体／担当課 北クラキッチン実行委員会／経済企画課
- 補助額 40万円
- 事業概要

令和4年度から開催されている「北のクラフトフェアMORIOKA」は、今では数万人が訪れる大型イベントとして定着していますが、その賑わいを周辺地域へ波及させたいと考えました。そこで、「北のクラフトフェアMORIOKA」と連動した市内飲

食店を中心としたフード&ドリンクイベント「北クラキッチン」を開催し、盛岡産品を活用したメニューなどを提供することで、来場者に盛岡らしい食文化の魅力を発信するとともに、中心市街地の回遊マップを作成し、イベント会場の周辺地域への賑わいの波及を目指します。



5

道の駅もりおか渋民防災・環境・探究体験プロジェクト

- 提案団体／担当課 ドリーム・シード・プロジェクト／産業振興課
- 補助額 33万円
- 事業概要

同団体では、これまでも定期的に防災教育プログラムを実施してきました。災害はいつ起こるか分からないからこそ、平時からの備えが必要であり、同時に東日本大震災の記憶を子どもたちに繋げることも大切です。そこで、防災用品の普段使

いを考えるワークショップや、ポータブル電源等の体験会、夜間での避難を疑似体験する防災キャンプといった、地域の子どもから大人までが一緒に参加でき、「楽しさ」や「主体性」を伴う体験型の防災教育イベントを実施します。

